

いかに部下を指導するか

苫小牧市医師会
苫小牧日翔病院

吉田 哲也

医局の人事で、部下の医師が定期的に入れ替わります。いろいろなキャラクターの方が来ますので、その都度その人に合った指導と対応をしているつもりです。が、なかなかその指導には気をつかうものです。

以下部下を指導する際に、自分自身時に見直し、気をつけている言葉(名言・金言)を挙げてみました。

まずは伝説の打撃コーチ高島導宏氏が、＜人生で伸びる人の共通点＞は7つあると述べています。

①素直であること②好奇心旺盛であること③忍耐力があり、あきらめないこと④準備を怠らないこと⑤几帳面であること⑥心配りができること⑦夢を持ち、目標を高く設定することができること

こんな部下がいたら、こっちが負けます。さすがに全部揃っている部下はいるわけもなく、「なんだかなあ」とぼやくことしばしばです。しかし、コンサルタント業の長谷川和廣氏はこう述べています。

「自分の部下を見ていてたるんではいると感じたら、自分がたるんではいる証拠！」

なんとも耳の痛いお言葉です。部下は自分の姿を映し出す鏡なのでしょう。

昨今叱ってではなく、褒めて伸ばす指導が主流のようですが、その勘所が難しいから悩むわけです。そこであの二宮尊徳氏は、こう指導せよと。

「かわいくば、5つ教えて3つ褒め、2つ叱って良き人とせよ」

かわいくない場合はどうしたらいいのかというのがありますが、叱る数より褒める数のほうを多くしたほうがいいようです。

しかし叱り方によってはパワハラになりかねないので、気をつけなければなりません。ラグビーの平尾誠二氏の教えは参考になります。

「プレー(行動)は叱っても、人格は責めない」「あとで必ずフォローする」「他人と比較しない」「長時間叱らない」

そうです。人格を責めてはいけません。

最後に、個人的には一番好きな金言。人を動かす～人心掌握術とはこういうことだと思わずにはいられない、連合艦隊司令官 山本五十六氏のお言葉で締めさせていただきます。

やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、
ほめてやらねば、人は動かじ。
話し合い、耳を傾け、承認し、
任せてやらねば、人は育たず。
やっている、姿を感謝で見守って、
信頼せねば、人は実らず。

地域枠医師のキャリア紹介

札幌市医師会
北海道家庭医療学センター栄町ファミリークリニック

鈴木 哲

私は現在栄町ファミリークリニックで勤務をしています。もともと札幌市清田区の出身で、3年ぶりに札幌での勤務となりましたが、住み慣れた街で訪問診療を行うと、これまでみてきた街並みの中に、いろいろな病を抱えた人がいることに気づき、生まれ育った街をまた新たな視点で見直すことができました。

私は高校時代に地域医療崩壊のニュースを見て医師を志し、卒業後一定期間北海道の地域に従事することを義務付けられた地域枠というシステムで大学に入学しました。地域枠といっても常に僻地にいるわけではなく、研修期間として9年のうち、合計4年間は北海道内の都市部にも勤務することができるため、現在は札幌で総合診療専門医プログラムに準じた研修を続けています。これまでは勤医協中央病院や帯広協会病院、寿都町立寿都診療所で勤務してきました。来年以降は再度地域医療に従事し、義務年限の9年間勤務することとなっています。

地域枠医師の進路に関してですが、必ずしも総合診療領域に進む人は多くなく、各学年で1～2人程度であり、臓器別専門医を目指す方が多い現状ではありますが、臓器別専門医のキャリアに関して也十分配慮されており、数年の遅れが出ることはありますが、専門医取得は可能です。私自身は総合診療医を志しましたが、都市部の在宅医療から人口3,000人の有床診療所までさまざまなセッティングの医療を経験させていただき、幅広い視野を身に着けるという点に関しては非常に良い研修ができていますと実感しております。今後も北海道の地域医療に貢献できるよう学びを続ける毎日です。